

<講演要旨>

第一部 海底資源開発の意義とその方式及び課題

上之門 捷二 キャノングローバル戦略研究所客員研究員

「海底資源開発の意義と課題」

海底資源開発の意義は、鉱物資源を安定確保して安全保障に役立てること、またそのことを通じて新産業を創出し、島嶼国との資源外交にも役立てて、海洋基本法に記載の海洋立国実現に貢献することである。

日本の EEZ には、自給を十分賄える量の非鉄金属資源等が賦存していることが調査、推定されている。

これまで、海底資源利用を実用化するハードルを乗り越えるまでに至っていなかったが、国際的な資源獲得競争の激化と開発する人材がいなくなる状況にあり、資源開発への時間的に余裕はなくなっている。

一方、経産省の海洋エネルギー・鉱物資源開発計画によると、平成 30 年度に商業化の検討することで進められているが、今のままでは資源量調査、開発機器開発は間に合いそうもない。

そのため、本年 6 月に産業構造ビジョン 2010 で「官の役割の見直し」が述べられたように、民間が主体となり、官が設備、資金を支援する公設民営方式によって、官民の総力を結集して資源調査、機器開発を進めることを提言する。又、機器開発のためには実海域での大規模実験が必要であり実験海域の特区を設定することを提言する。

次には、海洋開発による新産業創出の主体となる企業とパートナー企業が役割分担しロードマップを策定することである。このためには、市場規模の拡大と、技術開発を可能とする継続的な予算措置・投資の長期計画が必要であり、又、不確定なリスクの一つとなっている、海底資源開発と環境保全に関する法制度の整備を併行して行うことを提言する。

以上